

# ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218  
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

1999年(平成11年)4月25日 No.1123

## 目次

### ミクロ経済の視点から見たロシア経済の特殊性③

|  |   |
|--|---|
| キャピタル・フライトとロシアの対外債務(第1章 キャピタル・フライト)……………坂口 泉 | 1 |
| モルドバ政府指導部一覧(1999年3月12日議会承認)……………             | 8 |
| CIS諸国通貨の最新為替レート……………                         | 9 |

### ミクロ経済の視点から見たロシア経済の特殊性③

#### —キャピタル・フライトとロシアの対外債務—

#### 第1章 キャピタル・フライト

第3部の前書き 第1章では、ロシアにおけるキャピタル・フライトの問題を取り上げる。キャピタル・フライト自体を特殊な事象と決めつけることはできないかもしれないが、そのスケールの大きさを勘案すれば、ロシアにおけるキャピタル・フライトは、やはり、ロシア経済に顕著な特殊性のひとつであると思われるからである。

とはいえ、キャピタル・フライトは完全に闇の世界に属する事象で、その実態を紹介することは困難である。そこで、本レポートでは公表されている資料を基に、ロシアにおけるキャピタル・フライトの規模、方法、およびロシア政府が打ち出している(あるいは打ち出そうとしている)対策についてごく簡単に紹介することとする。

ついで、次号の第2章では、ロシアの対外債務の問題について紹介する。もちろん、対外債務の問題自体は、ロシア経済の特殊性だとは言いがたいのだが、巨額のキャピタル・フライトが起りうるだけの体力を有する国が、巨額の対外債務に苦しんでいる姿は、筆者の目には奇異に映るので、敢えて取り上げることにした。本来、「特殊性」の枠内で、対外債務の問題を取り上げる